



▲東村山市にある通産省機械研内で走行実験がはじめられたCVS／写真・共同フォトV

「より速く」「より快適に」「より安く」を目標として、交通のそれぞれの分野の技術革新には著しいものがある。

このように、交通本来の目的をめざした進歩が必要なことは当然であるが、同時に近年では各種の交通公害について地域住民の関心が高まってきた。

とくに都市交通については、車の渋滞と駐車難、通勤ラッシュなど、すでに都市の動脈硬化ともいえる現象が慢性化しているほか、交通事故や大気汚染、騒音などが市民の身近な日常生活さえおびやかすに至っている。

このように、人や物を目的地に移動させるという交通本来の手段を進歩させ、同時にそれに伴うマイナス効果を少なくするため、最近では多くの新しい交通システムの開発が進められ、大きな期待がかけられている。

そこで、会誌編集委員会では、このように、近年多くの人々の大きな関心となっている新交通システムを取り上げて特集号を企画することとした。

この特集号では、新しい車両の設計とか、性能などの記述はすでに多くの資料にみられるので極力避け、そのかわりに新交通システムの必要性、特徴の比較や果すべき役割、それがつくられるべき交通空間や実現へのステップなど、総合的な観点に焦点をおくことにした。

本特集号が、新しい交通体系の創造に重要な使命をになうべき土木技術者として、これらの問題への認識と広い視野を育てるのに役立つことができれば幸いである。

特集・新交通システム

会誌編集委員会